

野洲市  
地域の経済動向調査分析報告書

2023年3月15日

## 目 次

I .RESAS（地域経済分析システム）を活用した経済動向分析 … 1

II .市内事業者データによる経済動向分析 … 9

# I .RESAS(地域経済分析システム)を活用した経済動向分析

野洲市において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投下し、効率的な経済活性化を目指すため、「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した地域の経済動向分析を行った。

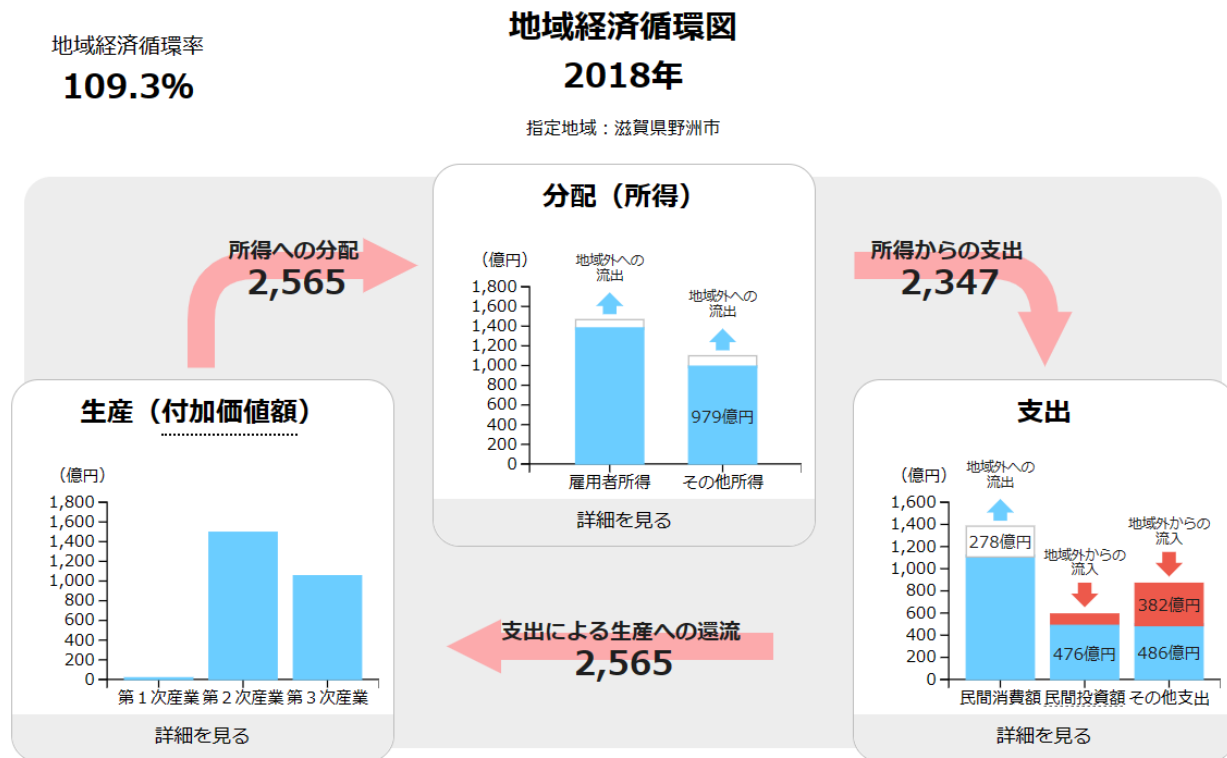
## 【分析手法】

下記の地域経済・社会に関わる3つの分析マップをもとに、野洲市の地域経済の特徴を、滋賀県全体との比較により浮き彫りし、「見える化」することを目指した。

- ・「地域経済循環マップ(地域経済循環図・生産分析)」:野洲市の地域経済を俯瞰し、産業特性を分析
- ・「まちづくりマップ(From-to 分析)」:野洲市の滞在人口の把握により、民間消費の流入の現状を分析
- ・「産業構造マップ」:企業数、従業者数、売上高、付加価値額および産業特化面から産業の現状を分析

## ◆地域経済循環マップ

### 【地域経済循環図】



「付加価値額」とは、企業などの生産活動によって生み出された価値のことで、生産額から原材料や外注費などの費用を差し引いて算出される。

\*売上高-費用総額(売上原価+販管費・一般管理費)+給与+租税公課(固定資本減耗は含まない)

地域内企業の経済活動を通じて「生産」された付加価値は、労働者や企業の所得として「分配」され、消費や投資として「支出」されて、再び地域内企業に還流する。この過程で地域外にマネーが流出した場合、地域経済が縮小する可能性がある。地域経済を活性化するためには、地域内での付加価値を生み出す力を高める必要がある。地域外から外貨(マネー)を稼ぐとともに、地域内に入ったマネーが最終的に地域から出

ていく前に、地域内で経済を循環させ、地域内の経済波及効果を高めるとの認識が高まっている。

この付加価値額の「生産・分配・支出」をベースとした「地域経済循環図」により、滋賀県全体との比較をしながら、野洲市の地域経済循環の全体像の見える化を試みた。

野洲市の地域内企業の「生産」する付加価値額は 2,565 億円だが、「分配」は 2,347 億円と地域外へ一部流出しており、「支出」は 2,565 億円で地域外から一部流入している。生産(付加価値額)÷分配(所得)より算出される「地域経済循環率」は 109.3%で、滋賀県の 102.1%に比べ地域経済循環率は 7.2ポイント高い。

「生産(付加価値額)」の内訳は、第 1 次産業が 17 億円、第 2 次産業が 1,495 億円、第 3 次産業が 1,053 億円となっており、前回(2015 年)と比較して、第 2 次産業が 808 億円増と大きく増加している。一人当たり付加価値額(労働生産性)は、第 1 次産業が 203 万円、第 2 次産業が 1,276 万円、第 3 次産業が 809 万円で、第 2 次産業は全国 1,719 市区町村中 317 位と上位に位置する。一方、滋賀県の第 1 次産業 237 万円、第 2 次産業 1,406 万円、第 3 次産業 851 万円と比較すると全産業において一人当たり付加価値額は低い傾向が見られる。

「分配(所得)」の特徴は、「雇用者所得」のうち地域内勤務は 1,368 億円で、地域外への流出が 98 億円(6.7%)。「その他所得(企業所得、交付税、補助金など)」のうち地域内は 979 億円で、地域外への流出が 120 億円となっている。「雇用者所得」のうち地域外からの流入の割合は滋賀県の 5.6%に対し、野洲市は地域外への流出が 6.7%と、傾向が逆転している。一人当たり雇用者所得は 273 万円で全国 1,719 市区町村中 207 位と上位にランキングしている。野洲市は JR 新快速停車駅として他の市町や京阪神へのアクセスが良く、ベッドタウンとして他地域に通勤する方も多い一方、第 2 次産業の「生産」を大きく伸ばしており、周辺地域から野洲市に通勤される方が上回っている状況と言える。

「支出」の特徴は、「民間消費額」は地域内消費額が 1,106 億円、域外流出額は 278 億円で全国 1,719 市区町村中 1,399 位と極めて低い。野洲市は流出率(20.1%)においても滋賀県の流出率(16.3%)を上回る。

「民間投資額」は、地域内投資額が 476 億円に対し域外流入額が 115 億円(流入率 24.1%)と滋賀県の流入率 25.7%と同水準であり、全国市区町村中 163 位と上位である。「その他支出」は、行政や国の出先機関などの支出と、移輸出と移輸入の差の合計で、滋賀県が 30.1%流入しているのに対し、野洲市は 78.5%が域外から流入しており、全国市区町村のうち 139 位と非常に高くなっている。

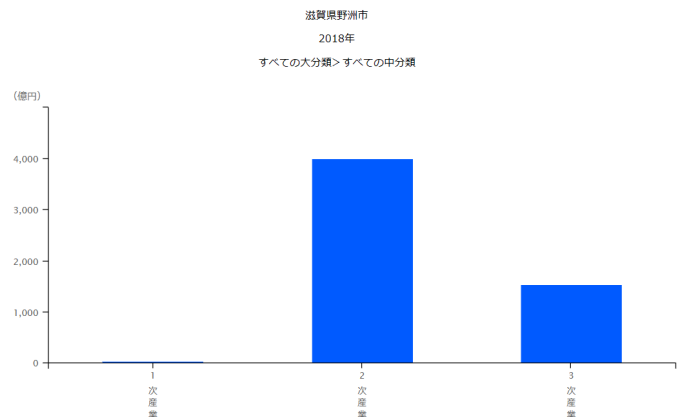
支出(設備投資等)に関して、製造業を中心に地域外から積極的に投資されており、また、野洲市で生産された製品に関して、他の地域への販売(移輸出)が増加していると推測される。一方、「民間消費額」のうち、地域内消費額は前回(2015 年)から横ばいと停滞しており、「生産」「分配」の増加分が地域内に循環できていない可能性がある。地域内での消費活性化、経済循環が課題と考えられる。

### 【生産分析】

野洲市の産業別「生産額(総額)」は、第 1 次産業が 29 億円、第 2 次産業(鉱業・建設業・製造業)が 4,009 億円、第 3 次産業が 1,539 億円と、第 2 次産業の比率が 71.9%と滋賀県全体 61.8%を上回り、非常に高い。

産業部門中分類別に見ると、①電子部品・デバイス(1,335 億円)、②電気機械(712 億円)、③はん用・生産用・業務用機械(555 億円)、④化学(389 億円)、⑤

生産額(総額-産業別)



保険衛生・社会事業(260 億円)が上位を占めている。

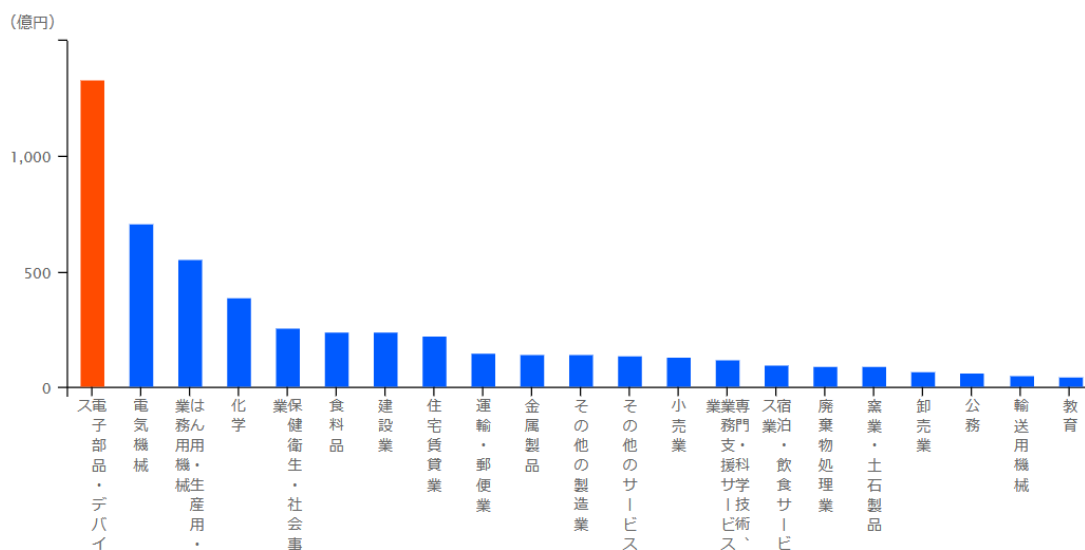
滋賀県の生産総額上位は、①化学、②はん用・生産用・業務用機械、③電気機械、④その他の製造業、⑤輸送用機械と野洲市同様にもものづくり(製造業)が上位を占めている。野洲市の電子部品・デバイスは村田製作所や京セラ、電気機械は大日本スクリーン製造、はん用・生産用・業務用機械はオムロンなどの存在が大きいと推測される。

### 生産額 (総額-産業別)

滋賀県野洲市

2018年

第2次産業>電子部品・デバイス



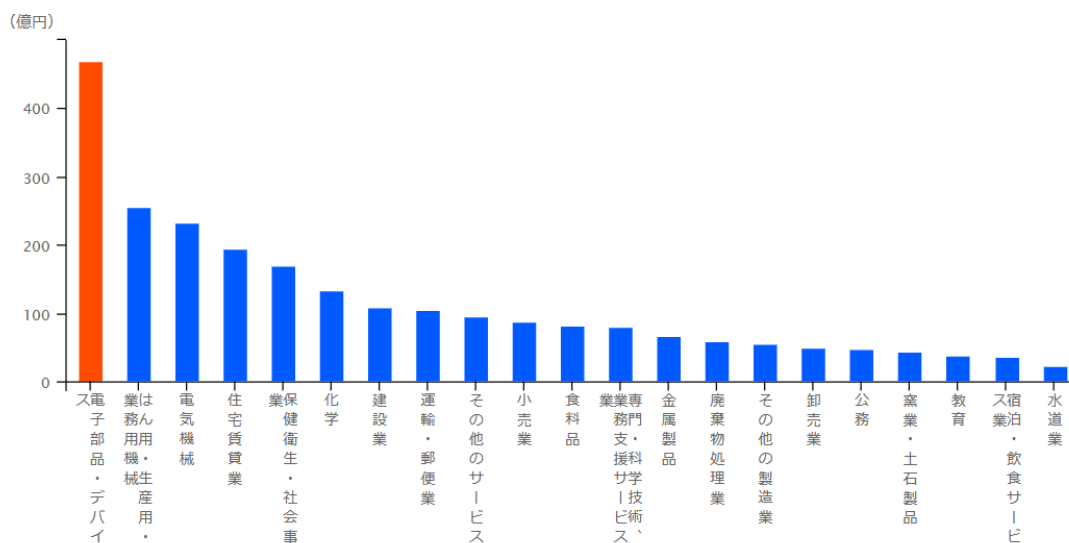
「付加価値額」においても、生産額と同様の産業が上位を占めている。第3次産業としては、「保健衛生・社会事業」が上位にある。

### 付加価値額 (総額-産業別)

滋賀県野洲市

2018年

第2次産業>電子部品・デバイス

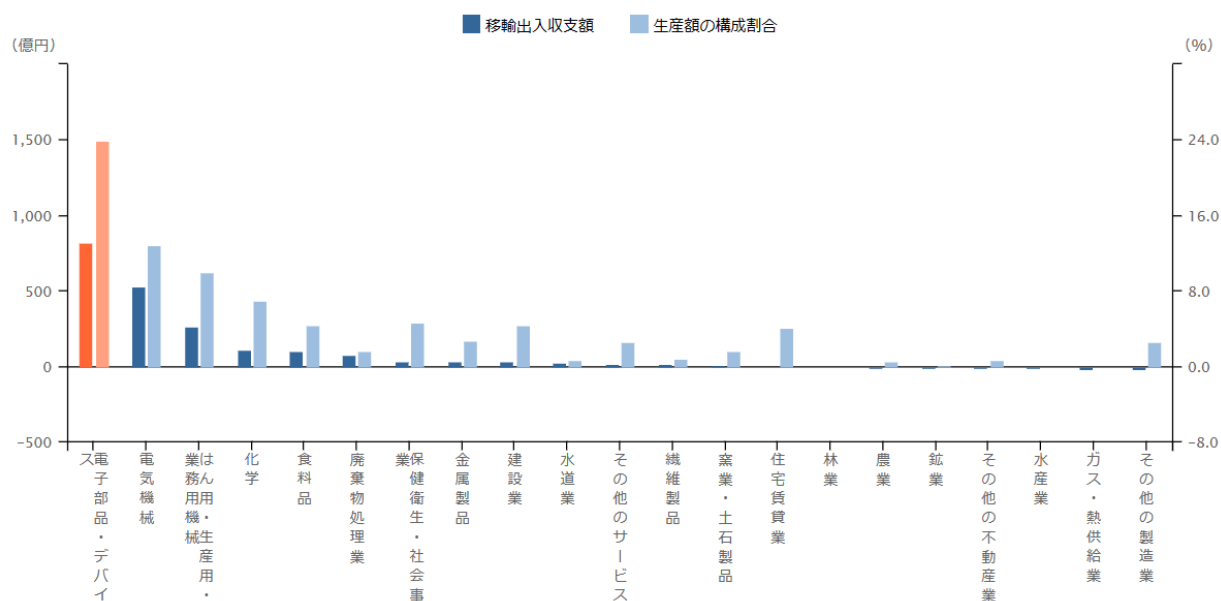


移輸出入とは地域外との取引で、地域外との取引収支額である「移輸出入収支額」も生産総額、付加価値額上位の電子部品・デバイス、電気機械、はん用・生産用・業務用機械、化学、食料品等が上位を占め、移輸出額の方が大きい、すなわち地域外から外貨を稼いでいる「域外市場産業」となっている。

## 移輸出入収支額（産業別） 2018年

指定地域：滋賀県野洲市

指定産業：第2次産業>電子部品・デバイス



野洲市は、第2次産業の付加価値額、一人当たり付加価値額(労働生産性)が高く、第2次産業が強い地域経済構造となっている。2018年付加価値額で見ると、電子部品・デバイス(469億円)、電気機械(256億円)、はん用・生産用・業務用機械(232億円)と、「域外市場産業(外貨を稼ぐ産業)」が上位を占めている。

一方、「域内市場(地域経済循環)産業」は、保健衛生・社会事業(169億円)は一定の規模があるものの、小売業(88億円)、宿泊・飲食サービス業(37億円)などは比較的小さいことから、これらを活性化することにより、地域経済循環にもつながる可能性が考えられる。

### ◆まちづくりマップ (From-to 分析/滞在人口)

コロナ感染症の影響も落ち着きつつある 2022 年における、県内と県外の滞在人口の平日・休日比較および性別・時間帯比較にて分析を行った。

平日はビジネス、休日はレジャー・観光・ショッピングが主な目的と想定されるが、県内滞在人口(2022年5月)は、平日 37,072 人、休日 35,388 人となっており、休日には買い物・観光等での人口の流出が見られる。県外の滞在人口は、平日が 3,326 人で休日が 3,307 人と、平日・休日滞在時人口はほぼ変わらない。野洲市への県外からのレジャー・観光客は少なく、村田製作所などの大手製造業をはじめとする企業へのビジネスユースの滞在と推測される。

平日・休日問わず県外の上位は、①京都府、②大阪府、③兵庫県、④東京都、⑤愛知県となっている。

性別の滞在人口を見ると、平日の県内男性 18,827 人・女性 18,245 人、県外男性 2,466 人・女性 860 人。休日の県内男性 17,750 人・女性 17,638 人、県外男性 1,962 人・女性 1,345 人となっており、県外からの女

性の来訪者は少ない。

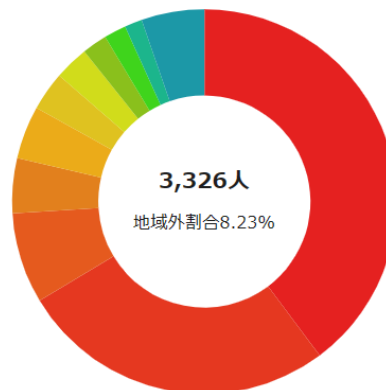
夜間人口(深夜4時滞在人口)に関して、平日の滞在人口は県内が39,210人、県外が1,065人。休日の滞在人口は県内が38,375人、県外が1,584人となっている。

【滞在人口：野洲市・2022年5月平日 14時】

滞在人口 / 都道府県内



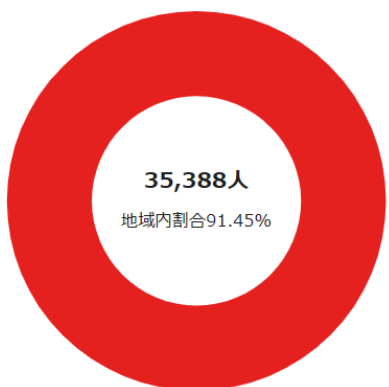
滞在人口 / 都道府県外



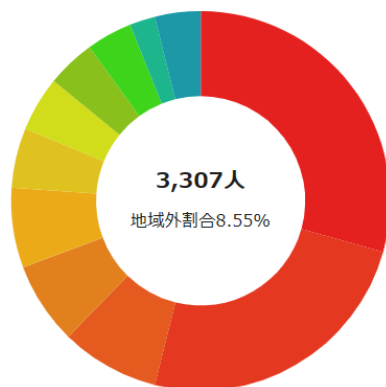
- 1位 京都府 1,322人 (39.75%)
- 2位 大阪府 886人 (26.64%)
- 3位 兵庫県 254人 (7.64%)
- 4位 東京都 154人 (4.63%)
- 5位 愛知県 148人 (4.45%)
- 6位 神奈川県 109人 (3.28%)
- 7位 奈良県 96人 (2.89%)
- 8位 三重県 70人 (2.10%)
- 9位 岐阜県 62人 (1.86%)
- 10位 埼玉県 49人 (1.47%)
- その他 176人 (5.29%)

【滞在人口：野洲市・2022年5月休日 14時】

滞在人口 / 都道府県内



滞在人口 / 都道府県外



- 1位 京都府 970人 (29.33%)
- 2位 大阪府 812人 (24.55%)
- 3位 兵庫県 278人 (8.41%)
- 4位 東京都 232人 (7.02%)
- 5位 愛知県 225人 (6.80%)
- 6位 岐阜県 168人 (5.08%)
- 7位 三重県 155人 (4.69%)
- 8位 奈良県 137人 (4.14%)
- 9位 神奈川県 129人 (3.90%)
- 10位 埼玉県 72人 (2.18%)
- その他 129人 (3.90%)

野洲市においては、休日の昼間人口が減少しており、休日における買い物・観光等による人口流出から、「民間消費の流出」につながっているものと推測される。

また、コロナ前の2019年5月(休日の滞在人口 県内:34,856人、県外:4,144人)と比較しても、県外からの滞在人口は減少しており、コロナ禍の影響もあるものの、地域外からの来訪により、地場産品などの製品を購入したり、サービスを受けるといった「民間消費の流入」は依然として近隣の市町と比較して少ないと推測される。

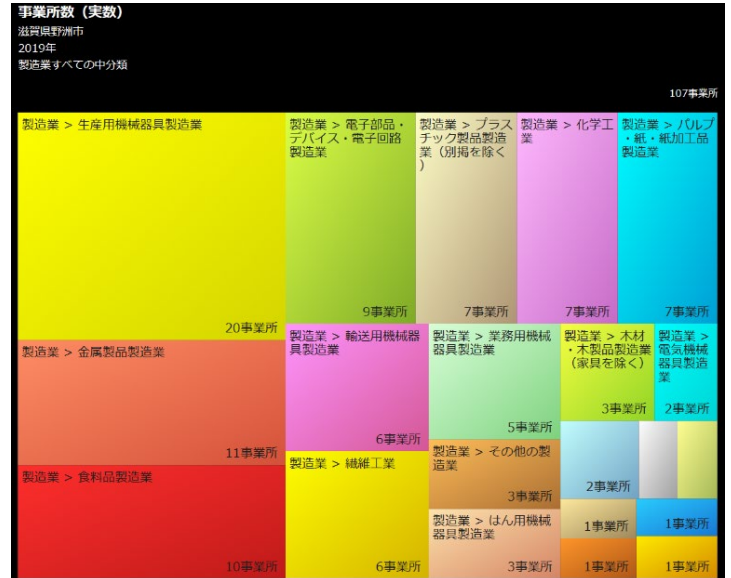
## ◆産業構造マップ（製造業）

野洲市の基盤産業の1つである製造業に関して、滋賀県全体との比較、事業所数、従業者数、売上高、付加価値額などの分析を行った。

（全体の産業構造マップ(2016年)に関しては、2022年の経済動向調査分析報告書を参照）

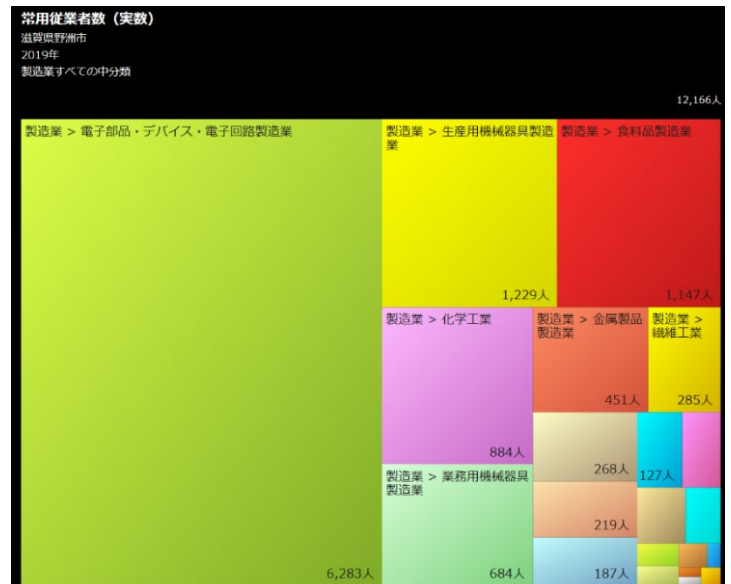
野洲市（製造業）の事業所数は2009年118事業所から2019年107事業所と微減した。産業別（中分類）には①生産用機械器具製造業（20事業所）、②金属製品製造業（11事業所）、③食料品製造業（10事業所）、④電子部品・デバイス・電子回路製造業（9事業所）、⑤プラスチック製品製造業、化学工業、パルプ・紙・紙加工品製造業（それぞれ7事業所）が上位を占めている。

滋賀県全体の①金属製品製造業、②プラスチック製品製造業、③繊維工業、④生産用機械器具製造業、⑤窯業・土石製品製造業に比べると、食料品製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業の事業所数が多いことは、野洲市の製造業の特徴でもある。



野洲市（製造業）の常用従業者数は、2009年8,574人から2019年12,166人に大幅増加した。電子部品・デバイス・電子回路製造業の1,807人増加をはじめ、各産業において増加が見られる。

産業別（中分類）には、①電子部品・デバイス・電子回路製造業（6,283人）、②生産用機械器具製造業（1,229人）、③食料品製造業（1,147人）、④化学工業（884人）、⑤業務用機械器具製造業（684人）が上位を占めている。滋賀県全体の①プラスチック製品製造業、②電気機械器具製造業、③輸送用機械器具製造業、④電子部品・デバイス・電子回路製造業、⑤はん用機械器具製造業と比較すると、電子部品・デバイス・電子回路製造業の従業者割合が圧倒的に高く、滋賀県内の40%を野洲市が占めている。





野洲市(製造業)の製造品出荷額等(売上高)は、2009年2,547億円から2019年3,833億円に大幅に増加している。産業別(中分類)には、①電子部品・デバイス・電子回路製造業(1,868億円)、②生産用機械器具製造業(529億円)、③化学工業(360億円)、④食料品製造業(243億円)、⑤金属製品製造業(224億円)が上位を占め、なかでも、電子部品・デバイス・電子回路製造業が48.7%を占めており、野洲市(製造業)の中核を担っている。

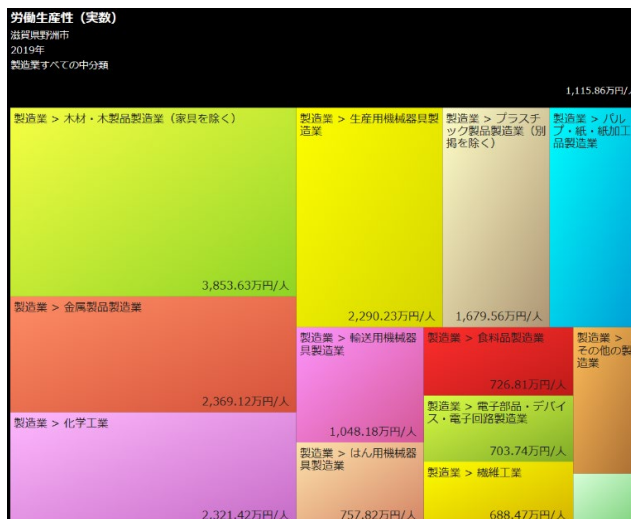
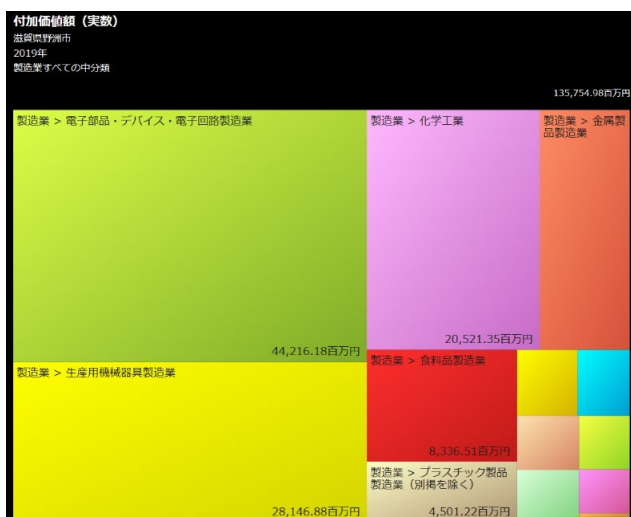
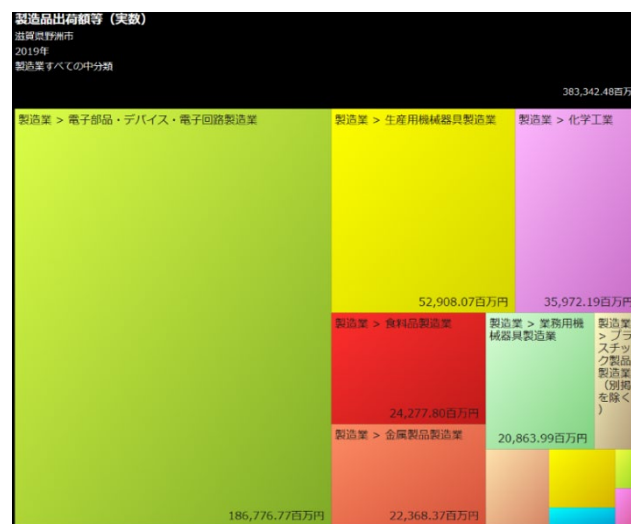
滋賀県全体の①輸送用機械器具製造業、②化学工業、③電気機械器具製造業、④はん用機械器具製造業、⑤プラスチック製品製造業に比べ、野洲市は電子部品・デバイス・電子回路製造業、生産用機械器具製造業が強く、県内でも独自性のある産業を有している。

野洲市(製造業)の付加価値額は、2009年1,395億円から2019年1,357億円にやや減少した。産業別(中分類)には、①電子部品・デバイス・電子回路製造業(442億円)、②生産用機械器具製造業(281億円)、③化学工業(205億円)、④金属製品製造業(107億円)、⑤食料品製造業(83億円)が上位を占めている。電子部品・デバイス・電子回路製造業が32.6%と、野洲市(製造業)の中核を担っているものの、製造品出荷額等(売上高)と比較すると比率が下がっており、労働生産性は他の産業ほど高くない。

滋賀県全体の①化学工業、②プラスチック製品製造業、③輸送用機械器具製造業、④電気機械器具製造業、⑤はん用機械器具製造業に比べ、野洲市は電子部品・デバイス・電子回路製造業、生産用機械器具製造業が割合を高めており、上位2つの産業で53.3%と野洲市(製造業)の生産する付加価値額の半数を占めている。

野洲市(製造業)の労働生産性は、2019年は1,116万円/人であった。産業別(中分類)には、①木材・木製品製造業(3,854万円/人)、②金属製品製造業(2,369万円/人)、③化学工業(2,321万円/人)、④生産用機械器具製造業(2,290万円/人)、⑤プラスチック製品製造業(1,680万円/人)が上位を占めている。

(労働生産性の算出には、個人事業主、無給家族従業者、臨時雇用者を除いた常用従業者数が用いられるため、実態より生産性が高く算出される業種がある)



滋賀県（製造業）の労働生産性は、2019 年は 2,107 万円/人であり、野洲市（製造業）の労働生産性は滋賀県の 53%にすぎないことがわかる。これは、基盤産業である、電子部品・デバイス・電子回路製造業の労働生産性が低いことに起因する(704 万円/人)。売上は増加基調にあり、それに伴い従業者数も増えているが、グローバル競争などにより付加価値額が伸び悩んでいると推測される。ただし、生産性に関しては、本社機能、研究所など、生産に直接関与しない部門がある場合、低い値になる可能性があることには留意する必要がある。

今後、労働力人口減少の進展に伴い、人員確保が難しくなる局面が想定されることから、野洲市においては製造業の労働生産性を高めることによって、付加価値額を維持、向上することが課題と考える。

（「稼ぐ力分析」は 2022 年の経済動向調査分析報告書の再掲）

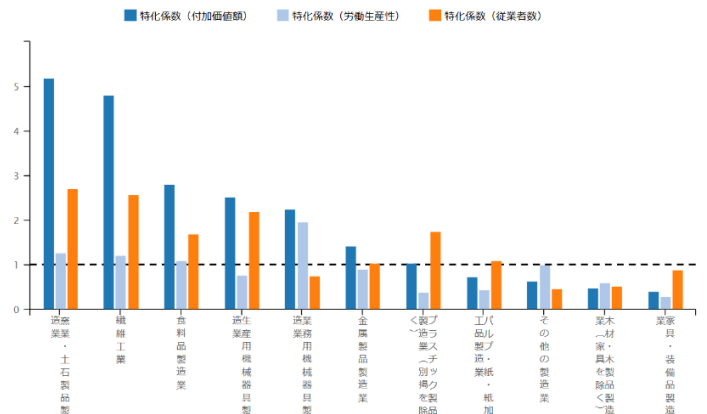
「稼ぐ力分析」では、売上高や付加価値額の高い産業である「製造業」の付加価値額・労働生産性・従業者数における特化係数の高い産業を俯瞰した。（全国と比較して集積度が高く特化している＝1以上）

「製造業」においては、①窯業・土石製品製造業、②繊維工業、③食料品製造業となっているが、④生産用機械器具製造業と⑤業務用機械器具製造業の「生産用・業務用機械」も、付加価値額で特化している（電子部品・デバイスは、地域経済循環マップ・修正特化係数では高い数値となっており出典による違いがある）。

その他の特化係数の高い産業は、医療業（付加価値額と従業者数）、洗濯・理容・美容・浴場業（付加価値額・労働生産性・従業者数）、飲食店（付加価値額・労働生産性・従業者数）などとなっている。また卸売業・小売業は全般に特化係数は全国と比較して低い数字となっている。

産業別特化係数  
2016年

指定地域：滋賀県野洲市  
指定産業：製造業



### 【「RESAS」から見る野洲市の産業特性まとめ】

「電子部品・デバイス」「電気機械」「はん用・生産用・業務用機械」などの製造業（域外市場産業）が、地域外から外貨を稼ぎ、雇用を支える一方で、飲食店や洗濯・理容・美容・浴場業などの 3 次産業（域内市場産業）の集積度も高いといった産業構造になっている。

野洲市全体の労働生産性（一人当たり付加価値額）は、第 1 次産業が 203 万円、第 2 次産業が 1,276 万円、第 3 次産業が 809 万円で、第 2 次産業が高い数値となっている。ただし、滋賀県全体と比較すると労働生産性が低く、増加する「生産」に対して人員が域内では確保しきれず、周辺地域から流入しており、「分配」の域外流出を招いている。基盤産業である製造業の生産性向上、特に、電子部品・デバイス・電子回路製造業、食料品製造業に関しては、デジタル化や補助金など政府の施策活用も含め生産性向上の推進を後押しする必要がある。

また、「生産」「分配」が増加する一方、「域内消費」が停滞していることも課題となっている。保健衛生・社会事業、小売業、宿泊・飲食サービス業など、「域内市場（地域経済循環）産業」を活性化することにより、地域経済循環につなげることが重要である。

## II.市内事業者データによる経済動向分析

野洲市内の景気の現状判断DI、景気の先行き判断DI、売上増減、資金調達、雇用等の、景気動向についてより詳細な実態を把握するために、以下の調査手法により情報収集・分析を行った。

(※DI(ディフュージョン・インデックス=景気動向指数):

野洲市内の事業者の今期の経営状況に関する、「上昇・黒字」「下降・赤字」といった主観的評価に基づき、景気動向を判断する指標。)

### 【調査方法】

市内小規模事業者 60 社(製造業、建設業、卸小売業、飲食・宿泊、サービス)を対象に、確定申告書作成支援時、各種制度資金あつせん調査時および補助金申請支援時の財務書類とヒアリングを基に、地域の企業景況調査分析を行った(年 1 回継続調査)。

### 【調査企業】

産業別	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
建設業	14 社	23%	14 社	23%	100%
製造業	7 社	12%	7 社	12%	100%
卸売・小売業	13 社	22%	13 社	22%	100%
飲食業	7 社	12%	7 社	12%	100%
サービス業	19 社	31%	19 社	31%	100%
合計	60 社	100%	60 社	100%	100%

### 【調査項目】

売上額、採算性(経常利益)、採算状況(黒字/赤字)、雇用(人手)、資金繰りの現況について調査した。

### 【調査データの見方について】





業種ごとに、各質問項目で、「上昇・黒字」と答えた割合から、「下降・赤字」と答えた割合を引いて、DIを算出する。DIの値に応じて、景気動向をお天気マークで表示している。

天気が良い(晴れ)ほど、景気が回復しており、天気が悪い(雨)ほど、景気が悪化していることを示す。

例) 上昇・黒字 50 - 下降・赤字 30 = DI 20

	上昇・黒字	停滞	下降・赤字	合計
回答数	50	20	30	100

D.I値	特に好調 30 ≤ DI	好調 10 ≤ DI < 30	まあまあ 0 ≤ DI < 10	やや不振 △10 ≤ DI < 0	不振 △30 ≤ DI < △10	きわめて不振 DI ≤ △30
表示	 晴れ	 晴時々曇	 薄曇	 曇り	 曇時々雨	 雨

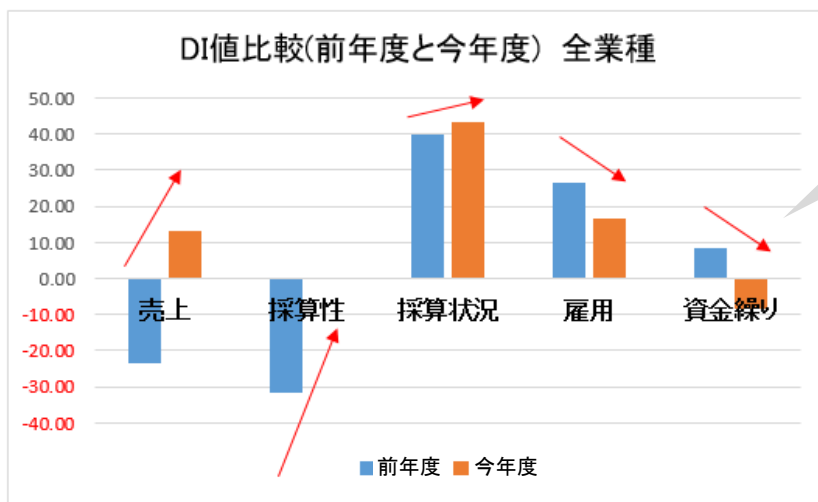
景況感はコロナ禍の影響も落ち着き売上回復、しかし資金繰りは一層厳しい

◆業況分析表

業種	前年度比較売上			前年度比較採算性			採算状況			雇用(人手)の状況			資金繰りの状況		
	上昇	停滞	下降	上昇	停滞	下降	黒字	赤字	採算状況	十分	丁度良い	不足	十分	丁度良い	不足
建設業	28.57%	35.71%	35.71%	21.43%	35.71%	42.86%	85.71%	14.29%	晴れ	57.14%	28.57%	14.29%	7.14%	78.57%	14.29%
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
製造業	57.14%	28.57%	14.29%	28.57%	71.43%	0.00%	71.43%	28.57%	晴れ	0.00%	57.14%	42.86%	0.00%	85.71%	14.29%
	晴れ	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
卸売・小売	23.08%	38.46%	38.46%	15.38%	61.54%	23.08%	46.15%	53.85%	曇り	7.69%	84.62%	7.69%	0.00%	69.23%	30.77%
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
飲食業	71.43%	0.00%	28.57%	28.57%	14.29%	57.14%	42.86%	57.14%	曇り	14.29%	85.71%	0.00%	28.57%	28.57%	42.86%
	晴れ	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
サービス	52.63%	21.05%	26.32%	36.84%	47.37%	15.79%	89.47%	10.53%	晴れ	36.84%	57.89%	5.26%	31.58%	47.37%	21.05%
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
全体	43.33%	26.67%	30.00%	26.67%	46.67%	26.67%	71.67%	28.33%	晴れ	28.33%	60.00%	11.67%	15.00%	61.67%	23.33%
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り

◆業況DIの比較 (前年度と今年度の比較)

業種	-	売上	採算性	採算状況	雇用	資金繰り
建設業	前年度	-7.1	-35.7	57.1	7.1	28.6
	今年度	-7.1	-21.4	71.4	42.9	-7.1
製造業	前年度	-28.6	-28.6	71.4	-14.3	-14.3
	今年度	42.9	28.6	42.9	-42.9	-14.3
卸売・小売	前年度	-15.4	-23.1	7.7	23.1	30.8
	今年度	-15.4	-7.7	-7.7	0.0	-30.8
飲食業	前年度	-100.0	-66.7	33.3	50.0	-33.3
	今年度	42.9	-28.6	-14.3	14.3	-14.3
サービス	前年度	-15.0	-25.0	40.0	50.0	0.0
	今年度	26.3	21.1	78.9	31.6	10.5
全体	前年度	-23.3	-31.7	40.0	26.4	8.3
	今年度	13.3	0.0	43.3	16.7	-8.3



全体的に資金繰りが厳しく、採算も回復不十分

## 【全体の分析】

全体的な景況感として、売上DI(前年度比較)と採算性DI(前年度比較)が、それぞれ前年度の▲23.3から+13.3とプラスに好転、同じく▲31.7から±0と大きく改善している。

売上DIについて、業種別では、飲食業が大きく回復しており、前年度の▲100.0から+42.9に大幅に改善している。製造業も▲28.6から+42.9、サービス業が▲15.0から+26.3とプラスに改善している。売上DIが悪化した業種はなく、建設業と卸売・小売業は横ばい状態となっている。

また、採算性DI(前年度比較)について、全ての業種が改善しており、特に製造業は前年度の▲28.6から+28.6、サービス業は同じく▲25.0から+21.1と大きくプラスに転じている。飲食業も▲66.7から▲28.6と大幅に改善している。しかしながら、建設業、卸売・小売業、飲食業では、前年度と同様、マイナス状態が続いており、依然として厳しい状況にある。

□売上DI(前年度比較)は、飲食業をはじめ製造業、サービス業でプラスに改善している。

[売上DI:晴時々曇 (滋賀県:曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

「前年度比較売上DI(全体)」「(上昇)－(下降)」は、前年度の▲23.3から今年度は+13.3となり、特に飲食業に大幅な改善が見られる。その他の業種は、製造業、サービス業が改善、建設業、卸売・小売業は横ばいとなっている。全体として改善している。

□採算性DI(前年度比較)は、全ての業種で改善に転じており、持ち直しつつある。

[採算性DI:薄曇 (滋賀県:曇、野洲市(前年度):雨)]

「前年度比較採算性DI(全体)」「(上昇)－(下降)」は、前年度の▲31.7から±0となり、建設業と卸売・小売業は小幅の改善にとどまる一方、他の3業種は大きく改善している。

□雇用DI(人手)は、全体としてやや十分な状況にあるが、製造業では人手不足が顕著。

[雇用DI:晴時々曇 (滋賀県:雨、野洲市(前年度):晴時々曇)]

「雇用DI(人手)(全体)」「(十分)－(不足)」は、+16.7と若干良好であるが、昨年と比べると「十分」が減り、「不足」が増えており、少し不足状況が拡大している。

特に製造業は42.9%が不足と回答しており、人手不足が顕著な状況となっている。

□資金繰りDIは、製造業、卸売・小売業、飲食業を中心に厳しい状況となっている。

[資金繰りDI:曇 (滋賀県:曇時々雨)、野洲市(前年度):薄曇]

「資金繰りDI(全体)」「(十分)－(不足)」は、▲8.3と悪化しており、特に、建設業、卸売・小売業では大幅に悪化している。

業種別で見ても、サービス業以外は不足しており、厳しい状況となっている。

特に、飲食業では42.9%の企業が「不足」と回答しており、依然として厳しい状況にある。また、卸売・小売業では30.8%の企業が「不足」と回答しており、昨年と比べて非常に厳しい状況となっている。

## 【業種別の分析】

### ① 建設業

[売上DI:曇り (滋賀県:曇時々雨、野洲市(前年度):曇り)]

昨年と同様、▲7.14と売上は若干の下降傾向が続いている。

滋賀県全体▲12.5と比較すると、上昇していると回答した企業の比率が若干高い。

[採算性DI:雨 (滋賀県:晴時々曇、野洲市(前年度):雨)]

昨年と比べて、10ポイント以上改善したものの、▲21.4と採算の下降傾向が続いている。

滋賀県全体と比較すると、停滞、下降していると回答した企業の比率が高く、野洲市においては採算性の悪化が続いている。

材料費・人件費の高騰、価格転嫁の遅れなど、採算上昇に至っていないことがうかがえる。

[採算状況DI:晴れ (野洲市(前年度):晴れ)]

前年度と比較すると、黒字企業の比率が上昇している。(78.6%→85.7%)

[雇用DI:晴れ (野洲市(前年度):薄曇)]

雇用(人手)の状況「十分」と答えた企業が57.1%と占めており、昨年の28.6%から大きく上昇している。

人手は十分足りている状況と言える。

[資金繰りDI:曇り (野洲市(前年度):晴時々曇)]

資金繰り「不足」と答えた企業が14.3%と、昨年の0%から上昇している。

### ② 製造業

[売上DI:晴れ (滋賀県:薄曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

前年度と比較すると、「上昇」14.3%→57.1%と比率が向上しており、売上は大きく回復している。

滋賀県全体と比較しても、売上が回復していることがうかがえる。

[採算性DI:晴時々曇 (滋賀県:晴時々曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

採算性「下降」と答えた企業は0%で、採算性DIも前年度の▲28.6から+28.6と大きく回復している。

[採算状況DI:晴れ (野洲市(前年度):晴れ)]

黒字企業が多く好調ではあるものの、前年度の黒字企業85.7%→今年度の黒字企業71.4%へと低下している。採算状況はまずまず良好。

[雇用DI:雨 (野洲市(前年度):曇時々雨)]

雇用DIは前年度▲14.3→今年度▲42.9と製造業のみが「不足」の状態となっている。

[資金繰りDI:曇時々雨 (野洲市(前年度):曇時々雨)]

資金繰りDIは前年度▲14.3、今年度▲14.3と横ばいであり、厳しい状態が続いている。

### ③ 卸売・小売業

[売上DI:曇時々雨 (滋賀県:薄曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

前年度と比較すると、DI、「下降」回答比率も全く同じ数値となっており、全く回復しない厳しい状況が続いている。2年前の「下降」と回答した企業の比率55.9%と比べると38.5%となっており改善しているものの昨年からの停滞状況にある。

[採算性DI:曇り (滋賀県:曇時々雨、野洲市(前年度):曇時々雨)]

前年度と比較すると、▲23.1→▲7.7 と回復している。しかしながら、採算性向上には厳しい状況にあり、仕入・材料費の高騰などの影響が懸念される。

[採算状況DI:曇り (野洲市(前年度):薄曇)]

前年度と比較すると、赤字企業の比率が増加している。(46.2%→53.9%)

上記の採算性「下降」が回復している一方、黒字化には至っておらず赤字企業が増加している。

[雇用DI:薄曇 (野洲市(前年度):晴時々曇)]

昨年度と比べると、雇用DI +28.1→±0 と労働需給が均衡している状況となっている。

[資金繰りDI:雨 (野洲市(前年度):晴れ)]

昨年と比べて、資金繰り「十分」38.5%→0%、「不足」7.7%→30.8%と大きく資金繰りが悪化しており、DI が +30.8→▲30.8 と急落している。

#### ④ 飲食業

[売上DI:晴れ (野洲市(前年度):雨)]

昨年度は全ての企業が「下降」していると回答(「下降」100%)であったが、今年度は「上昇」71.4%、「下降」28.6%であり、大きく回復した。

[採算性DI:曇時々雨 (野洲市(前年度):雨)]

前年度と比較すると、「上昇」0%→28.6%、「下降」66.7%→57.1%と回復したものの、半数以上は採算下降傾向にあり厳しい状況が続いている。

[採算状況DI:曇時々雨 (野洲市(前年度):晴れ)]

前年度と比較すると、赤字と回答した企業の比率が増加している。(33.7%→57.1%)

[雇用DI:晴時々曇 (野洲市(前年度):晴れ)]

前年度の雇用DI +50 → 今年度 +14.3 と下落している。

[資金繰りDI:曇時々雨 (野洲市(前年度):雨)]

少し回復したものの、資金繰り不足の状態が続いており(DI ▲33.3→▲14.3)、コロナ特別融資の返済開始などを控え、資金繰りが厳しい状態が続いている。

#### ⑤ サービス業

[売上DI:晴時々曇 (滋賀県:晴時々曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

売上「上昇」が 52.6%を占め、DIも前年度▲15→今年度+26.3 と大きく回復している。

[採算性DI:晴時々曇 (滋賀県:薄曇、野洲市(前年度):曇時々雨)]

前年度と比較すると、「上昇」していると回答した企業の比率が増加している。(15.0%→36.8%)

その結果、DIも▲25.0→+21.1 と大きく回復している。

[採算状況DI:晴れ (野洲市(前年度):晴れ)]

前年度と比較すると、黒字と回答した企業の比率が若干増加している。(70.0%→89.5%)

[雇用DI:晴れ (野洲市(前年度):晴時々曇)]

雇用DI 前年度+50.0→今年度+31.6 と引き続き人手は足りている状況にある。

[資金繰りDI:晴時々曇 (野洲市(前年度):薄曇)]

資金繰りDI 前年度±0.0→今年度+10.5 と資金繰りは回復している。

## 【事業者の声（抜粋）】

アンケート結果では、現在の問題として「6. 材料価格の上昇」を挙げる事業者が最も多く、次いで「1. 売上の低迷」「5. 後継者問題」の順に多い。また、当面の課題および経営施策としては、「1. 販路開拓」が最も多く、「8. 事業継承」「2. 広告宣伝」と続いている。

売上の回復、物価上昇、事業承継が課題となっている事業者が多いことがうかがえる。

### ①売上の低迷

#### 【建設業】

- ・安定的な売上のために、新たな手を考えなければならないため対策を検討している。
- ・今年度は売上が順調であったが、次年度は厳しい見込み。
- ・受注が不安定。

#### 【製造業】

- ・コロナの影響を受けて、受注数が減っていたが戻りつつある。しかし以前より月毎の変動が大きく先が読めない。
- ・陶芸市場が停滞。商品開発したいがアイデアなし。

#### 【卸売・小売業】

- ・売上回復傾向であるもコロナ前には至らず。
- ・売上が低迷しており、妻を専従者から外レパートにするか考えている。
- ・コロナの影響で飲食店特にスナックへの売上が減少している。また居酒屋からの回収が遅れている。
- ・顧客の減少に伴い売上低下。病気療養もあり廃業も視野に入れている。

#### 【飲食業】

- ・コロナの影響で売上が減少。回復の見込みがなく厳しい。

#### 【サービス業】

- ・請負企業の経費削減の一環として、整備費用のコスト改善の影響で来年は売上が減少する予定。
- ・売上低下傾向にある。回復の見込みはないため現状維持へ。
- ・コロナによる外出率低下によって客の定期来店間隔が長くなっている。外出控えが少なくなってきたので来季は売り上げの回復に期待。
- ・新規の生徒より卒業する生徒が多い状況が続いている。習い事を複数する生徒が減少しているため新規の生徒が少なくなっている。
- ・元請けの仕事が減ってきている。
- ・来店頻度が悪化。行事開催がコロナ前に戻ることを期待。
- ・今年度は売上が順調であったが、次年度は厳しい見込み。

### ②原材料高騰

#### 【建設業】

- ・原材料・外注費高騰で採算悪化。
- ・受注単価横ばいの中、原材料価格高騰。



#### 【製造業】

- ・原材料は高騰しているが価格転嫁できてない。

#### 【卸売・小売業】

- ・原材料の値上がりが続いているが価格転嫁が厳しい。
- ・材料価格の上昇が続き、再度値上げを検討が必要。
- ・需要は安定しているが原材料価格上昇。

#### 【飲食業】

- ・原材料が上がってきた分、価格転嫁しきれず利益幅が減少している。
- ・顧客は戻りつつあるが、原材料の高騰が厳しい。
- ・徐々に売上は回復してきているが、物価上昇が厳しい。

#### 【サービス業】

- ・売上は伸びたが利益の殆どない仕事もある。ガソリン代の高騰が厳しい。
- ・原材料の高騰が影響し始めている。

### ③広告宣伝

#### 【卸売・小売業】

- ・売上が低迷していた秋口にチラシ広告の効果で売上が回復。今後はSNSとネット販売等ITを活用して販路拡大に取り組みたい。
- ・以前の紙媒体の広告よりネット広告による新規顧客獲得が最近増えている。

#### 【サービス業】

- ・不動産物件の広告宣伝のPR方法について検討している。

### ④事業承継

#### 【建設業】

- ・事業承継の検討を続けてきたが、10月に廃業、息子へ継承し法人化(事業譲渡し廃業)。

#### 【製造業】

- ・事業承継をどのタイミングでするのか検討中。

#### 【サービス業】

- ・廃業の予定。

### ⑤人材不足

#### 【建設業】

- ・外注先職人の減少。人材確保が困難。
- ・高齢化で従業員がおらず、人手不足。

#### 【製造業】

- ・人材不足。

#### 【卸売・小売業】

- ・専門職のため人材が取り合いとなっている。